

寄贈図書リスト

ロケットガールの誕生 コンピューターになった女性たち, ナタリア・ホルト著, 秋山文野訳, 四六判,

446ページ, 3,500円+税, 地人書館
図解 宇宙のかたち「大規模構造」を読む, 松原隆彦著, 新書判, 280ページ, 920円+税, 光文社

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお申込みください。

e-mailで toukou@geppou.asj.or.jp 宛にお送りください。折り返し, 受領の連絡をいたします。

賞の推薦

第60回藤原賞受賞候補者推薦依頼

事業の概要

科学技術の発展に卓越した貢献をした日本国籍を持つ功労者に藤原賞を贈り表彰する。

- 1 受賞対象: 自然科学分野に属する基礎科学および応用化学
- 2 賞の内容: 年2件 賞状, 賞牌(金メダル), 副賞(各1,000万円)
- 3 推薦受付締切日: 2018年12月20日(木)
藤原科学財団必着

詳細は, 以下のURLを参照して下さるようお願いいたします。

<http://www.fujizai.or.jp>

研究助成

山田科学振興財団 2019年度研究援助候補者推薦依頼

山田科学振興財団より, 日本天文学会宛に2019年度研究援助候補者推薦依頼がありましたのでお知らせいたします。

【援助の趣旨および内容】

1. 本財団は自然科学の基礎的研究に対して, 研究費の援助をいたします。評価が定着して研究資金が得やすいものより, 萌芽的で将来の発展が期待される基礎研究を重視します。
推薦応募に際しては下記を考慮してください。

- 1) 萌芽的・独創的研究
 - 2) 新規研究グループで実施される研究
 - 3) 学際性, 国際性の観点からみて優れた研究
 - 4) 国際協力研究
2. 援助額: 1件当たり100~500万円, 総額3,000万円, 援助総件数は山田科学振興財団全体で15件程度です。
 3. 援助金を給与に充てることはできません。特に財団が指定した場合を除き, 給与以外の用途は自由です。
 4. 援助金の使用期間は, 贈呈した年度およびその次の年度の約2年間とします。
 5. 日本天文学会の推薦枠: 3件以内

【申請者資格】

1. 当該研究を独立して実施しうる者でなければなりません。すなわち, 当該研究者は代表研究者であることを必要とし, 単に研究グループの研究費集めの一端を担う者であってはなりません。
2. 身分, 経歴, 年齢等は問いません。ただし, 日本の研究機関に所属する研究者であることが必要です。

【応募方法】

研究援助募集要項は, 財団のHPを参照くださるようお願いいたします。

<http://www.yamadazaidan.jp/>

なお, 天文学会への応募は以下のように行ってください。

- 日本天文学会締切日: 2019年1月31日(木) 必着
- 申請書は, メールのPDF添付ファイルとして下記のアドレスにお送りください。件名は, 「山田科学振興財団 2019年度研究援助応募 氏名……」として送信くださるようお願いいたします。
受領後, 確認メールを日本天文学会事務所より返信いたします。

[申請書送付アドレス]: jimucho@asj.or.jp

【本学会からの推薦件数】

日本天文学会からの推薦件数は3件までとなっております。応募された研究提案は日本天文学会が審査を行い3件以内を山田科学振興財団に推薦いたします。

研究会・集案案内

名古屋大学大学院理学研究科・ 名古屋市科学館・名古屋大学 KMI 共催 第17回坂田・早川記念レクチャー

「消えた真空エネルギー」

九後太一氏（京都大学名誉教授，京都産業大学理理学部
客員教授/益川塾副塾頭）

平成31年1月26日(土) 開場13:30 開始14:00 終了予定17:00

名古屋市科学館サイエンスホール

■対象：高校生以上

■定員：300名（申込み制，応募多数の場合は，学生・教員を優先に抽選します）

参加には科学館の観覧料が必要です。（高校生・大学生200円（要学生証），大人400円）

■講演会ホームページ：<http://www.phys.nagoya-u.ac.jp/SakataHayakawa/>

～集まれ，科学者を夢見る若者たち！～

名古屋大学大学院理学研究科・素粒子宇宙物理学専攻は，素粒子物理学と宇宙物理学の両分野における世界の研究の発展へ寄与するとともに，ノーベル賞受賞者をはじめ，多くの人材育成にかかわってきました。坂田・早川記念レクチャーは，坂田昌一・早川幸男両教授の業績をたたえ，21世紀を担う研究者の発掘および育成を目的として設けられました。

第17回目となる今回は，素粒子理論の広い分野で優れた研究業績を上げてこられた九後太一氏をお招きします。素粒子物理では，真空にも「場」と呼ばれる量が満ちていて，エネルギーが存在すると考えられています。宇宙を加速膨張させているダークエネルギーの正体として，この真空エネルギーが有力視されていますが，観測されるダークエネルギーの大きさは素粒子理論から見積もられる真空エネルギーの大きさよりも1兆分の1兆分の1兆分のさらに1兆分の1くらい小さなものとなっています。真空エネルギーはどこかに消えてしまったのでしょうか…？

講演では，現代素粒子理論の根幹をなす「標準理論」を解説しつつ，真空エネルギーの謎について詳しくお話いただきます。

申込方法：講演会ウェブサイトの専用フォームからお申込みください。

（申込みで寄せられた個人情報は，本セミナーの運営に必要な範囲でのみ使用します）

申込締切：平成31年1月7日(月・祝)

問合せ先：

内容についてのお問い合わせ

〒464-8602 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院理学研究科 QG 研

担当：野尻

電話：052-783-4064

e-mail: sakata-hayakawa2018@gravity.phys.nagoya-u.ac.jp

申込方法，会場に関するお問い合わせ

〒460-0008 名古屋市中区栄2丁目17-1

名古屋市科学館

担当：天文係 中島

電話：052-201-4486（代）

注：高校などでまとめて参加希望される場合は，お問い合わせください。

〈主 催〉名古屋大学大学院理学研究科，名古屋市科学館，名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構

会務案内

会長候補者選挙結果

日本天文学会定款第17条および会長・副会長・理事・監事選考細則（以下，細則）に基づき行いました会長候補者の選挙について，結果を次のように報告します（細則第9条）。

推薦された候補者は梅村雅之氏1名だったため，細則第6条により投票は行わず，梅村雅之氏を会長候補者としました。なお，この結果は，細則第9条に基づき理事会，代議員に報告いたしました。

（選挙管理委員会委員長 青木和光）

日本天文学会 2018年秋季年会報告

2018年秋季年会は、9月19日(水)から21日(金)の3日間、兵庫県立大学の姫路工学キャンパス(兵庫県姫路市)にて口頭講演10会場、ポスター講演1会場を使って開催された。講演件数は口頭講演が421件、ポスター講演が198件で、合計619件の講演があった。年会参加者は一般500名、学生331名の計831名であった。また、以下に報告するように、通常セッションに加え特別セッション1件、企画セッション2件も開催された。展示コーナーは1件の賛助会員による展示があった。開催地理事の伊藤洋一氏や開催地実行委員の石田俊人氏、本田敏志氏、高橋隼氏、小山田涼香氏、大島誠人氏、高山正輝氏、斎藤智樹氏、加藤則行氏、戸塚都氏、竹内裕美氏ほか皆さんのご尽力により、順調に進行した。

座長は次の50名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示し、感謝の意を表す。(敬称略)

	9月19日(水)	9月20日(木)		9月21日(金)	
	11:00-13:00	09:30-11:30	13:30-15:30	09:30-11:30	13:30-15:30
A 会場	高エネルギー 井上芳幸 (理化学研究所)	高エネルギー 太田耕司 (京都大学)	銀河相互作用 立原研吾 (名古屋大学)	銀河相互作用 伊王野大介 (国立天文台)	教育・他 富田晃彦 (和歌山大学)
B 会場	コンパクト天体 岩切渉 (中央大学)	コンパクト天体 川中宣太 (京都大学)	コンパクト天体 久保田あや (芝浦工業大学)	コンパクト天体 根來均 (日本大学)	コンパクト天体 坂本貴紀 (青山学院大学)
C 会場	銀河形成 岡本崇 (北海道大学)	銀河形成 松岡良樹 (愛媛大学)	銀河形成 田中賢幸 (国立天文台)	銀河形成 大内正己 (東京大学)	銀河形成 松井秀徳 (旭川工業高等専門学校)
D 会場	星・惑星 細川隆史 (京都大学)	星・惑星 古屋玲 (徳島大学)	星・惑星 中村文隆 (国立天文台)	星・惑星 岩崎一成 (大阪大学)	星・惑星 高桑繁久 (鹿児島大学)
E 会場	銀河団/観測機器 佐藤浩介 (埼玉大学)	観測機器 栗田光樹夫 (京都大学)	観測機器 松浦周二 (関西学院大学)	観測機器 白田知史 (国立天文台)	観測機器 木野勝 (京都大学)
F 会場	恒星 中川亜紀治 (鹿児島大学)	恒星/観測機器 川端弘治 (広島大学)	観測機器 萩野浩一 (東京理科大学)	観測機器 高田淳史 (京都大学)	観測機器 山岡和貴 (名古屋大学)
G 会場	銀河 植田準子 (国立天文台)	銀河/星間現象 村岡和幸 (大阪府立大学)	星間現象 田中邦彦 (慶應義塾大学)	星間現象 水野恒史 (広島大学)	星間現象 田中孝明 (京都大学)
H 会場	星・惑星 住貴宏 (大阪大学)	星・惑星/太陽系 塚越崇 (国立天文台)	太陽 新田伸也 (筑波技術大学)	太陽 磯部洋明 (京都市立芸術大学)	太陽 勝川行雄 (国立天文台)
I 会場	観測機器 亀谷收 (国立天文台)	観測機器 中島拓 (名古屋大学)	観測機器/銀河核 竹腰達哉 (東京大学)	銀河核 今西昌俊 (国立天文台)	銀河核 植村誠 (広島大学)
J 会場	宇宙論 大栗真宗 (東京大学)	宇宙論/超新星爆発 守屋亮 (国立天文台)	超新星爆発/星・惑星 野沢貴也 (国立天文台)	星・惑星 奥住聡 (東京工業大学)	星・惑星 野村英子 (東京工業大学)

〈記者会見〉

日本天文学会2018年秋季年会記者会見は、年会前日の9月18日(火) 13:30から兵庫県職員会館の多目的ホールにて行われた。柴田会長が挨拶および日本天文学会の組織と活動の概要、今回の秋季年会概要、9月22日に姫路駅前の「じばさんびる」で開催される公開講演会の紹介を行った。特別セッションで「安全保障と天文学」の議論をすることにも言及した。つづいて開催地理事による兵庫県立大学の紹介とその教員や大学院生が行う研究発表の紹介があった。そして年会研究講演から2件についての詳しい学術発表を行った。当日は報道機関4社の参加があった。事前および事後に研究者や日本天文学会事務所にコンタクトが続いている。他のメディアも含め印刷版、オンライン版合わせて少なくとも10月1日現在で6件の掲載を確認している。なお今回は特別セッションにも7社の取材が入り、NHKカメラによる撮影が当日と翌日の報道番組で紹介された。

今回の記者会見で発表を行ったもの:

発表1

「超巨大ブラックホールを巡る高密度のドーナツ状ガス雲」

今西昌俊 (国立天文台), 泉拓磨 (国立天文台), 和田桂一 (鹿児島大学)

関連講演 S21a

発表2

「国際協力でついに完成! 星のゆりかご, オリオン星雲の広域精彩地図」

中村文隆 (国立天文台), 川邊良平 (国立天文台), 土橋一仁 (東京学芸大学)

関連講演 P106b

(林左絵子)

〈特別セッション〉

【安全保障と天文学】

世話人: 柴田一成, 須藤靖, 梶田隆章, 山崎典子, 野津湧太, 林左絵子, 土居守, 伊王野大介, 山下卓也

年会初日の9月19日(水) 15:00から17:00まで年会A会場にて特別セッション「安全保障と天文学II: 一声明作成に向けて」が開催された。2回目の開催となる本特別セッションは、さまざまな立場や世代の方々から「安全保障と天文学」の問題についてのさらなる意見を募り、日本天文学会からの声明の作成に向けて意見を集約することを目的として、日本学術会議

との共催で行われた。参加者は約180名であった。初めに、日本学術会議連携会員の岡村定矩氏よりあいさつがあった。次に、日本天文学会会長の柴田一成氏よりセッションの趣旨説明があった。コミュニティーの意見として、京都大学博士課程2年の谷本敦氏、東京大学教授の戸谷友則氏、総合研究大学院大学・名古屋大学名誉教授の池内了氏による講演があった。その後に行われた参加者による自由討論では、幅広い年齢層の参加者からさまざまな観点の意見が出された。最後に日本学術会議連携会員の林正彦氏による挨拶でセッションは幕を閉じた。

〈企画セッション〉

[銀河相互作用で理解する銀河の進化]

世話人: 立原研悟, 伊王野大介, 河野孝太郎, 金子紘之, 大内正己, 柏川伸成

銀河の進化を理解する上で、銀河間相互作用は鍵となる現象の一つである。近年のすばる望遠鏡やALMAなどの観測技術の進歩により、近傍から遠方まで銀河相互作用の領域をつぶさに観測できるようになり、分子雲や星形成活動の姿が詳細に得られるようになってきた。シミュレーションなどによる理論的予想と直接比較することが可能となったこの機会に、銀河・銀河団から星間現象・星形成まで、観測と理論を問わず、幅広い分野の研究者が集まり、銀河相互作用に関連する最新の研究成果を持ち寄って議論することで、銀河進化の理解をより一層深めることを目的として、本企画セッションを行った。

2件の基調講演、11件の口頭発表、2件のポスター発表の申込みがあり、また最後の24分の時間を使い、自由に議論するための総合討論の時間を用意した。木曜日の午後と金曜日午前中の二つの時間帯に渡り、合計4時間のセッションとなり、それぞれ60名程度の参加者が訪れ、盛況な会となった。

基調講演は、近年興味深い研究成果を発表している2名の若手研究者に依頼した。但木謙一さん(国立天文台)は、多くのmergerシステムについて、ガスの豊富さの違い(dry/wet merger)などに注目し、それらの統計的研究結果をレビューされた。もう一人、植田準子さん(国立天文台)の基調講演では最新のALMAの結果を紹介され、shocked gasが検出されたことなど、興味深い成果について議論された。また一般講演では、X線スペクトルによるICMの解析(L. Guさん・理研)、LMC/SMCの相互作用に起因する、Magellanic bridge/streamの金属量分布の研究(山本宏昭さん・名大)、銀河の力学的相互作用の最新の数値シミュレーションの結果(A. Pettittさん・北大)な

ども紹介された。総合討論では、議論したい内容を誰もが書き込めるドキュメントをネットワーククラウド上に用意するという手法を試した。講演後に質問できなかったことや、逆に発表者から他の参加者に意見を問う内容など、議論開始直前まで、さまざまな書き込みがなされ、活発な議論を促すツールとして役立った。

このように、幅広い分野に渡る研究者が集まり、議論を行うという当初の目的は果たされ、成功裡に閉幕したのではないかと考える。

[高エネルギー宇宙ニュートリノから展開するマルチメッセンジャー天文学]

世話人：太田耕司，石原安野，井上芳幸，新沼浩太郎，坂本貴紀，林田将明，諸隈智貴

2017年9月22日のIceCube イベント (IC-170922A) の電磁波追究観測の成果を受けて、高エネルギー宇宙ニュートリノから展開するマルチメッセンジャー天文学への関心を高め、一層の研究発展を促すために本企画セッションを開催した。最初に、石原安野氏からIceCubeによる高エネルギーニュートリノ検出の原理や現状の紹介があり、つづいて間瀬圭一氏から、そのアップグレードであるARAニュートリノ望遠鏡の紹介と今後の展望が示された。次に、村瀬孔大氏による高エネルギーニュートリノ起源天体に関するレビュー講演があった。林田将明氏はFermiを中心としたガンマ線での観測のレビュー、井上進氏はIC-170922Aの対応天体であるブレーザーでの高エネルギーニュートリノ・ガンマ線放射の理論的解釈について講演された。また、有力な高エネルギーニュートリノ起源天体候補であるブレーザーについて伊藤亮介氏が、低輝度ガンマ線バーストについて坂本貴紀氏が、そして、高エネルギーニュートリノ起源になりうる超新星について田中雅臣氏が紹介した。特に超新星については、電磁波での観測的な検証についての議論が展開された。気球を用いたガンマ線検出実験の紹介も高橋覚氏からあった。この後、井上進氏から高エネルギーニュートリノと電磁波の異なる放射モデル、山崎優衣奈氏から可視近赤外での新天体自動検出に関する考察、諸隈智貴氏から光赤外大学間連携の紹介があった。また、米倉覚則氏と青木貴弘氏によって国内電波望遠鏡での追究観測の現状と可能性が紹介された。最後に山中雅之氏が、光学近赤外線における高エネルギーニュートリノ対応天体の追観測のレビューを行った。講演後、今後どのような追究観測を行っていくのがよいのか各種起源天体候補を念頭において全体で活発な討論を行った。企画セッション直後、ニュートリノ天体追究観測

に新たに参入しようという方が現れたり、討論の結果に基づいて早速共同研究が開始されたりと、実り多い企画セッションとなった。なお、WEB集録を作成することになり、

www.kusastro.kyoto-u.ac.jp/~ohta/heneutrino/index.html においたので、参考資料として皆様のお役に立てれば幸いである。

〈天文教育フォーラム〉

年會3日目の9月21日(金)の15:30から17:00まで、A会場にて日本天文教育普及研究会との共催で「天文教育フォーラム」が開催された。今回は「市民との科学的活動を支えるオープンサイエンス」をテーマとし、会場には約60名の参加者が集まった。

はじめに世話人の富田晃彦氏(和歌山大学)よりフォーラムの趣旨説明がなされた。近年、データへのアクセスが容易になり、一般市民が科学データを使った研究活動ができるようになってきている現状を踏まえ、市民とともにどんな実りある活動ができるかを検討したい旨が述べられた。その後話題提供として、2件の招待講演が行われた。

最初の話題提供として、白田-佐藤功美子氏(国立天文台)に「すばる望遠鏡ハイパー・シュプリーム・カム(HSC)のデータを使った『市民天文学』というタイトルでご講演いただいた。まずシチズンサイエンス(和訳に市民天文学という語を当てた)の簡単なレビューがあり、最も成功した例としてGalaxy Zooなどの事例が紹介された。次に、国立天文台の試みとして、すばる望遠鏡HSCの公開データを利用したシチズンサイエンスが紹介された。HSCデータのビューアーを用意するほか、既存のプラットフォームを使わず、日本独自の作り込みを行うことで、教育現場での利用やシニア層の取り込みを目指すこと、そのためにGalaxy Zooと違って、よりゲーム要素を加味する、答え合わせを通じて参加者の自信をつけさせるなど独自の工夫を試みていることが紹介された。最後に、シチズンサイエンスではレベルに応じて段階的に「レベル1: データ収集の手伝い」「レベル2: データ分類」「レベル3: 科学的議論への参加」「レベル4: 研究」とつながる道を作っておく必要があることが述べられた。そしてHSCを用いたこの活動は、レベル2に当たるという位置づけとした。

次に、海老沢研氏(宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所)に「JAXAの天文データアーカイブ(DARTS Astro)開発者からの視点」というタイトルでご講演いただいた。講演では、海老沢氏の個人的経験を事例としてご紹介いただきながら、市民が参加する活動が

価値あるものになるためには、あえて前述のレベル3や4を目指し、「困難だが達成感がある」「努力すれば上達できる」「誰でも同じルールでできる」「競争し順位が決まる」「市民とプロが直接交流できる」ことなどが重要であることが述べられた。そして、天文学でシチズンサイエンスを実施するための私案として、指導者が責任をもって指導にあたり、市民も正式な立場で研究活動に参画できるような仕組みをご提案いただいた。そして、そのためには科学データを用いたシチズンサイエンスの実施に価値を見だし、それに注力する組織と人が必要であることをご指摘いただいた。

話題提供の後、富田氏と木村かおる氏（科学技術館）をファシリテーターとして、会場全体での議論が行われた。会場からは、講演に対する質問やコメントのほか、自身の経験の紹介、既存の制度活用の提案、シチズンサイエンスそのものの意義、新たな試みの紹介など、多くの発言があった。フォーラムの半分近い時間が議論に割かれたが、それでも時間まで挙手が続くなど、活発な意見交換が行われた。最後に木村氏から、議論の継続に期待する旨のまとめがあり、閉会となった。

（鷹野重之）

〈懇親会〉

年会2日目の9月20日（木）19時より、灘菊酒造西蔵にて懇親会が開催された。一般83名、学生39名の合計122名の参加があった。開催地である兵庫県立大学の学長など来賓3名を招待客とした。事前に多数の方が申し込まれたことから、当日の申込みは受け付けなかった。懇親会を希望されたものの参加できなかった皆様にはお詫び申し上げる。

懇親会は開催地理事の伊藤の進行で始まり、柴田一成天文学会会長による挨拶、石見利勝姫路市長から歓迎の挨拶をいただいた。なお、石見市長は京都大学宇宙物理学教室のご出身である。その後、兵庫県立大学の太田勲学長より乾杯のご発声をいただき、酒樽の鏡開きを合図に飲食がスタートした。樽酒は飲み放題、料理も姫路おでんや串揚げ、尾頭付きの鯛の塩焼きなど豪華なもので、懇親会終了時に料理が余るといふ、天文学会の懇親会としては異例の事態となった。また、会場は実際に酒造りに使っていた蔵で、机も酒樽の蓋を利用したものなど、すばらしい雰囲気のある場所だった。しばらくして、本年会にて名誉会員となられた海部宣男国立天文台名誉教授よりお言葉をいただき、また灘菊酒造の社長からも挨拶を頂戴した。懇親会終盤に、次回開催地である法政大学の春日隆開催地理事より挨拶と次期年会への参加の呼びかけがあっ

た。その後、21時に散会となり、多くの参加者がほろ酔い気分で2次会のために姫路駅周辺に繰り出した。

（伊藤洋一）

〈保育室〉

姫路工学部キャンパス大会館2階の2部屋をお借りして保育室を開設した。今回の申込みは7家族10名であったが、体調不良のため2家族3名の直前キャンセルがあり、5家族7名の利用があった。兵庫県立大学のスタッフの多大なるご協力に感謝する。

（石川遼子、町田真美）

〈進路相談コーナー〉

日本天文学会のキャリア支援委員会は天文学および関連する多様な分野において、若手研究者が活躍できる場の開拓と確保を目指している。そのための企画の一つとして、年会会場に、天文学で学位を取った後、ポストクや研究所や大学などの狭い意味のアカデミアではない場所で活躍している先輩たちと直接話をしてもらうことで自分の将来のキャリアに関する視野を広げてもらう「進路相談コーナー」を設けている。

今回も tennet であらかじめアドバイザーの名前と在学中の研究や就職後の仕事の内容を紹介した。また場所の選定、当日の案内などをより良いものにするなど、相談に来やすい環境作りに工夫をした。コーナーは9月20日11時30分から2時間設置した。アドバイザーは天文出身の修士と博士修了の3名、相談者は7件。意見やアンケートをお願いしたところ、今回もアドバイザーや相談者からも好評で、次回の開催に当たって多くの助言をいただいた。キャリア支援委員会では今後も年会会場に「進路相談コーナー」を設置していく予定である。

（市川隆）

〈公開講演会〉

年会最終日の翌日9月22日（土）13:30から16:00に、姫路駅前の「じばさんびる」にて「地球の原子・分子から宇宙の惑星・生命へ」と題して公開講演会が開催された。講師は、山本雅貴氏（理化学研究所・放射光科学研究センター利用システム開発部門 部門長）、海部宣男氏（国立天文台名誉教授／西はりま天文台名誉台長）の2氏にお願いした。

講演会は、天文学会天文教育委員で滋賀大学の大山真満氏の司会により、林左絵子天文学会副会長の挨拶、つづいて開催地の兵庫県立大学の伊藤から講演の趣旨の説明があった。講演は、山本氏が「小宇宙・生

命の働きに迫る超高分解能顕微鏡SPring-8」と題して、大型放射光施設SPring-8の設備とそれを用いた研究についてお話しいただいた。話の後半では、探査機「はやぶさ」が回収した小惑星イトカワの資料の解析や、先生のご専門であるタンパク質の構造解析についてわかりやすく解説いただいた。休憩を挟み、海部氏が「地球外生命との“コンタクト”」と題して、宇宙における生命の存在可能性についてお話しいただいた。講演の前半にはご自身が若い頃に取り組みられた野辺山宇宙電波望遠鏡の建設や、その装置開発の話、そしてそれらを用いた星間化学の研究についてもお話された。特に、「音響光学型電波分光計の第一号機は自分が開発した装置の中で最も自慢の装置である」という部分は、声に一段と張りがあり、聞いて良かったと思えた。

聴衆は120名で、大学生から一般まで幅広い年齢層の参加者があった。今回の講演会は、一見関連のなさそうな天文学と生命科学というキーワードを組み合わせた挑戦的な企画であったが、両氏がたいへん興味深いお話をわかりやすくしてくださったため、たいへん好評だった。質問も「宇宙における生命の存在可能性について、天文学者は楽観的で生物学者は悲観的と聞いたことがあるが、お二人はどのようにお考えか」とか「自分は大学で法学を学んでいる。宇宙開発が進む一方で法整備が進んでいないように思えるが、どうお感じになるか」など天文学の範疇を超えたものもあり、学際的な雰囲気をもった講演会となった。

(伊藤洋一)

(年会実行委員長：寺田幸功)

入会・移籍・退会のお知らせ

2018年9月19日に開催された公益社団法人日本天文学会理事会において、正式に入会・移籍が承認された方、退会が報告された方の人数をお知らせします。

入会 正会員：91名 準会員：32名
 賛助会員：1団体
 団体会員：1団体
 移籍 準会員→正会員：1名
 退会 正会員：8名 準会員：4名

安全保障と天文学に関する臨時会員全体集会のおしらせ

下記要領で、安全保障と天文学に関する臨時会員全体集会を行います。詳細につきましては、決定次第随時お知らせいたします。会員の皆さまのご参加をお待ちいたします。

場所：京都大学理学研究所

日時：12月22日(土) 10:00-12:00

※主要大学と中継を結びます。

問い合わせ先：jimu@asj.or.jp

編集委員会より

ご挨拶

10月より、新規に四名の編集委員が加わりました。人数が増え、委員一同、意を新たに、より一層充実した誌面作りに努めます。

今期より編集委員を務めることとなりました。最新の研究成果だけでなく、その研究のために日夜奮闘する方々の魅力もお伝えできればと思っています。著者と読者の皆さまに喜んでいただけるよう、微力ながら努力いたします。

江草芙実（東京大学）

今期から編集委員を務めさせていただきます嘉数です。社会教育施設に勤めていますので、天文学の裾野を広げる視点から編集作業のお手伝いができるように頑張ります。よろしく願いいたします。

嘉数次人（大阪市立科学館）

今期より編集委員を務めさせていただくことになりました西塚です。太陽分野の2人目の編集委員として、諸先輩方の指導を仰ぎながら、編集活動に参加させていただきます。最新の太陽研究の紹介や、太陽と他分野の交流の懸け橋になるような記事の掲載に貢献したいと思っています。記事投稿の話などございましたら、お気軽にお声がけいただけますよう、よろしくお願いいたします。

西塚直人（情報通信研究機構）

10月より編集委員を務めさせていただくことになりました東大の福井です。専門は系外惑星の観測的研究です。これまでの天文月報では系外惑星分野がやや手薄の印象でしたので、この分野の記事を増やし、内容の充実に貢献出来ればと思います。

福井暁彦（東京大学）

2019年表紙デザイン決定

2019年の天文月報表紙デザインの募集に対しましては、5件の応募がありました。いずれ劣らぬ力作でしたが、厳正なる選考の結果、若尾寛子 (hippe) さんの作品に決定いたしました。新しい表紙をお楽しみに！

天文月報記事投稿用アップローダー

<http://www.asj.or.jp/geppou-office/toukou/index.php>

■ログイン法

login: geppou passwd: toukou

■アップロードの仕方

アップロード画面にいったまづ必要事項を埋めてください。

するとアップロードに進むことができます。ファイルが複数ある場合は「投稿フォームを増やす」ボタンを押してください。押すたびに欄が増えます。

1回あたり全部で最大50 Mbyteまで、個数は20個まで送信できます。（それ以上の巨大なファイルのアップロードは推奨されませんが、やむをえない場合は分割してお送りください）。

■注意

投稿者の個人の認証はcookieを利用しています。

したがってcookieを受け取らないブラウザでは使えません。

またフォームのチェックや可変個数のアップロードボックスはjavascriptを利用していますのでjavascriptが使えなければこのアップローダーは使えません。

その場合は従来どおり、toukou@geppou.asj.or.jpまでメールでご投稿ください。

■連絡先

アップローダーに関するご質問はtoukou@geppou.asj.or.jpまでお願いします。

（天文月報編集長）

天文月報記事ご執筆用テンプレート (SKYLIGHT, EUREKA, 天球儀)

ご執筆にあたりましては、日本天文学会HP内、「天文月報」のページにあります「投稿用Tex/MS Wordテンプレート」をご活用ください。

<http://www.asj.or.jp/geppou/yoko/template.html>

texで執筆される方はtexテンプレートの中から文字コードに応じたものを、MSWordで執筆される方はword用のテンプレートをご利用下さい。詳しくは各readmeをお読み下さい。

訃 報

会員の伊藤謙哉氏は2018年7月27日にご逝去されました。満90歳でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

会員の高柳和夫氏は2018年8月18日にご逝去されました。満91歳でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

訂 正

天文月報2018年10月号（第111巻第10号）714ページの書評「時空のさざなみ 重力波天文学の夜明け」の中で、価格の表記に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

誤) 本体3,200円+税

正) 本体3,000円+税

天文月報オンライン/投稿用アップローダーのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード (5桁の数字と) **vol111** (6文字) の計11文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○-▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は各号共通の数字です。

小宮山裕 (委員長), 上野悟, 江草芙実, 岡部信広, 奥村真一郎, 押野翔一, 嘉数次人, 滝脇知也, 富田賢吾, 中村航, 西塚直人, 萩原喜昭, 福井暁彦, 松田有一, 諸隈智貴, 山田真也

平成30年11月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-8 株式会社 国際文献社

定価720円 (本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359 (事務所) / 0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

会費には天文月報購読料が含まれます。

©公益社団法人日本天文学会2018年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)